

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ぼぶり西宮教室		
○保護者評価実施期間	2025年12月22日		～ 2026年1月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2025年12月22日		～ 2026年1月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高いABA(応用行動分析学)に基づく個別セラピーが受けられること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ABAの中でも特に効果が高いとされるDTT(不連続試行指導法)の専門的な研修を受けたセラピストが、楽しく、かつ、集中的に働きかけることでお子様の持っている力を引き出します。 ・事業所内研修を隔月で行っています。 ・SV(スーパーバイザー)が各利用者のプログラムや支援方法について日頃からアドバイスをし、セラピーにも同席するなどスーパーバイズを行なっています。 ・お子さま一人ひとりの発達段階や課題に応じて、目標設定や手続きの調整を行いながら、継続的な個別支援を実施しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべてのケースに対してスーパーバイザー(SV)がより定期的に関与できる体制づくりを検討していきます。 ・また、内部研修に加え、外部研修も取り入れ、セラピスト全体の専門性向上に努めていきます。
2	担当制のセラピーが受けられること。	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として1名(または2名)のセラピストが担当し、年間を通して継続的にセラピーを行っています。担当制により、お子さまの特性や変化を丁寧に把握し、一貫性のある支援を提供できる体制を整えています ・保護者様との親密な信頼関係を築くことや1年を通しての切れ目のない支援をさせていただくことができます。 ・担当セラピストが休みのときには、担当以外が交代しセラピーを提供できるよう、事前に見学に入ってお子様の様子を知る機会をいただくなどの取り組みをしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当制を基本としつつ、担当以外のセラピストでも一定の支援の質を担保できるよう、見学やケース共有、記録の活用を進めています。 ・チーム全体でお子さまを支える体制づくりを強化していきます。
3	保護者様とセラピストが力を合わせるセラピーを取り入れていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・療育中は、原則として保護者様の同席、またはモニターを通してお子さまの様子を見ていただいています。 ・日々のセラピーを通して、保護者とセラピストが目標や関わり方を共有し、家庭と事業所が連携した支援を大切にしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、保護者様に実際にセラピーに参加していただき、関わり方を実践的に学んでいただく機会を設けていきます。 ・ご家庭での関わりにもつながる支援を、今後も意識的に行っていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団療育を取り入れていないこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別療育を中心とした支援を行っていること、またこれまで保護者様から個別療育を希望される声が多いことから、現在集団療育は実施しておりません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活に必要なスキルについては、個別療育の中で課題として取り上げ、支援を行っています。 ・来年度は金曜の午前中は「朝の会」と「帰りの会」を設定し、他のお子様と一緒に活動をする機会を設けます。
2	保護者同士の交流の機会が少ないこと	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様への直接支援を優先する中で、保護者様同士の交流を支援するための人員や体制を十分に確保することができませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、春と秋にペアレントトレーニングの講習会を開催する予定です。 ・また、法人主催のイベント等も活用し、保護者同士が交流できる機会づくりを進めていきます。
3	園や学校など外部機関との直接的な連携が少ないこと	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも電話等での情報共有は行ってきましたが、園や学校へ直接訪問するための人員や時間の確保が難しく、十分な連携が取れていない状況でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度4月に保育所等訪問支援事業の開所を予定しています。 ・これにより、事業所内での支援と園・学校での様子をつなぎ、より実践的で継続性のある支援が行える体制を整えていきます。